



第77回車座集会（多摩区）

3大学（専修大学・明治大学・日本女子大学）と
地域がつながるまちづくり

日時：令和7年11月30日（日）10時から

場所：専修大学サテライトキャンパス

- ① 開会
- ② 市長あいさつ
- ③ 参加者紹介
- ④ 本日のねらいの説明
- ⑤ ワークショップ① 大学と地域の連携
- ⑥ ワークショップ② 3大学同士の連携
- ⑦ 市長との意見交換
- ⑧ 市長総括
- ⑨ 閉会、写真撮影



開催概要

日時 令和7年11月30日（日）10:00-12:00

会場 専修大学サテライトキャンパス（向ヶ丘遊園駅北口 徒歩1分）

テーマ 3大学と地域がつながるまちづくり

内容		
○ 開会	1 分	
○ 市長あいさつ	2 分	
○ 参加者紹介	4 分	
○ 本日のねらいの説明	5 分	
○ ワークショップ①②	60 分	
○ 市長との意見交換	45 分	
○ 総括	2 分	
○ 閉会、写真撮影	2 分	

参加者 22名(大学教員6名、大学事務局4名、学生4名、多摩SDC5名、行政職員3名)
(この他、多摩SDCのファシリテーター3名、グラフィックレコーダー3名が参加)

タイムスケジュール

01	9:30 開場	07	10:47-11:12 (25分) ワークショップ② 3大学同士の連携 ○教員・事務局・学生の3グループで意見交換 (15分) ○全員でシール投票・結果発表 (9分) ○市長コメント (1分)
02	10:00-10:01 (1分) 開会	08	11:12-11:57 (45分) ワークショップを踏まえた意見交換 ○市長と参加者の皆様との意見交換
03	10:01-10:03 (2分) 市長挨拶	09	11:57-11:59 (2分) 総括 ○市長による総括
04	10:03-10:07 (4分) 参加者紹介 ○司会からお一人ずつ紹介 (肩書、お名前)	10	11:59-12:01 (2分) 閉会、記念撮影 ○閉会後、参加者全員で記念撮影
05	10:07-10:12 (5分) 本日のねらいの説明 ○多摩区・3大学の協定締結20周年 ○これまでの3大学との連携事業紹介 ○各アクターの課題感の説明		
06	10:12-10:47 (35分) ワークショップ① 大学と地域の連携 ○課題①「大学の知見を地域に還元、地域を研究のフィールドに」 (専修大学、日本女子大学) 課題②「学生によるまちの課題解決・活性化+多摩SDCの人材確保・育成」 (明治大学) ○大学ごとのグループで意見交換 (20分) ○各グループによる発表 (14分) 3グループ×4分+交代時間2分 ○市長コメント (1分)		

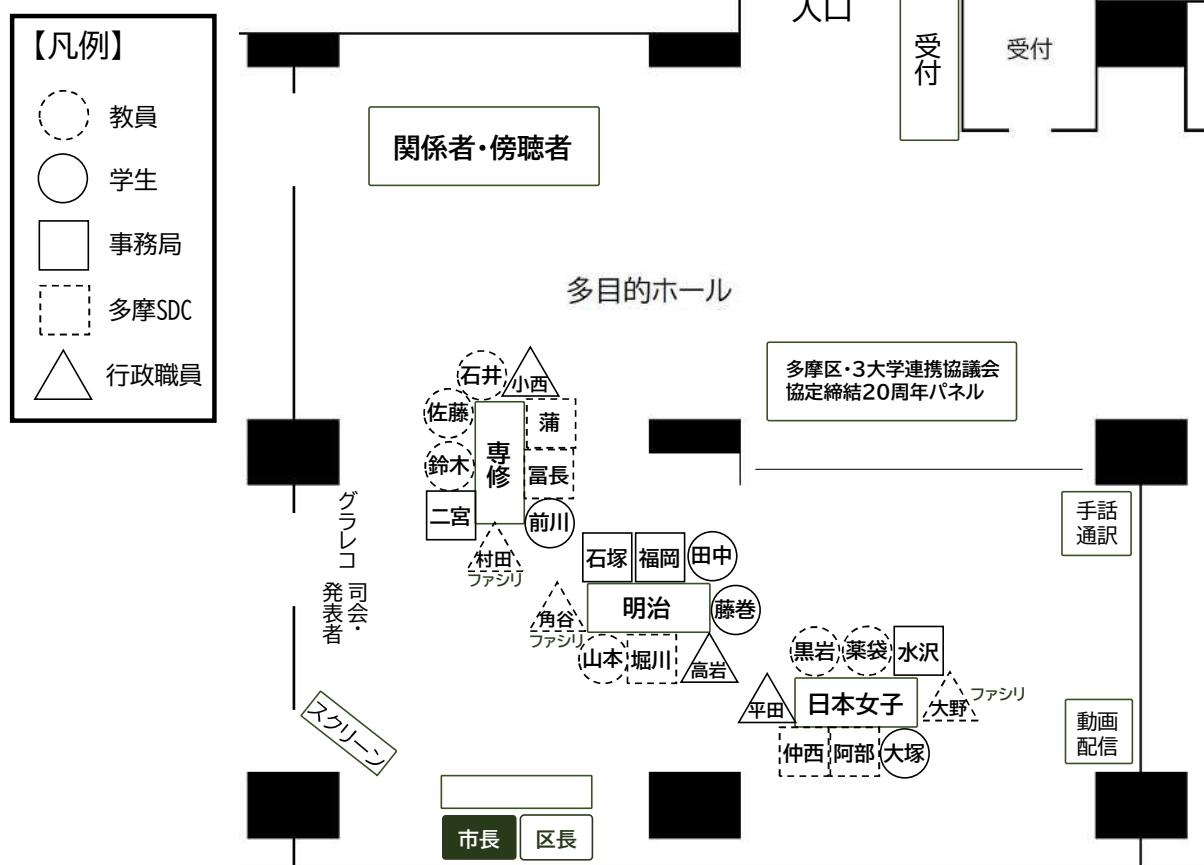
※記念撮影の後、参加者の皆様で振り返りとして
グラフィックレコーディングへの付箋貼りを行います。
お手数ですが、少々お残りください。

参加者一覧

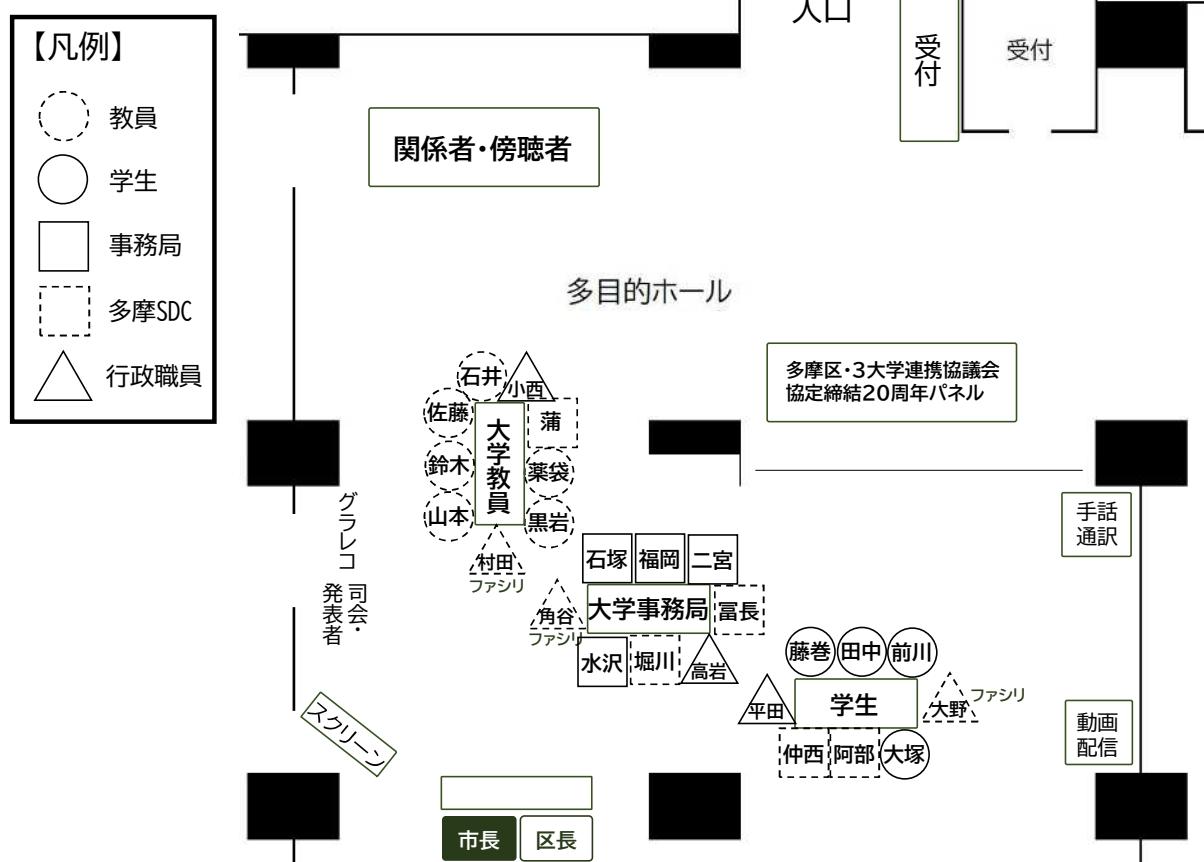
No.	氏名(ふりがな)	活動概要
01	さとう けいいち 佐藤 慶一	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度の大学地域連携事業で「デジタル技術を活用した防災まちづくり手法の開発」を実施し、逃げ地図のDX化などを実施 多摩区をフィールドとして、大学、地域、IT企業と連携した「まちづくりGDXラボ」の活動。8月に域学連携シンポジウムを主催
	属性 所属	
	大学教員 専修大学 ネットワーク情報学部 教授	
02	いしい けんたろう 石井 健太郎	<ul style="list-style-type: none"> 佐藤教授と共に「まちづくりGDXラボ」の活動実施 SDGs出前授業で区内小学校でプログラミング体験実施 まちの人をつなぐ居場所づくりを行う地域活動団体「マチノパズル」に参加
	属性 所属	
	大学教員 専修大学 ネットワーク情報学部 教授	
03	すずき なおみ 鈴木 奈穂美	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマは「暮らしに関わる経済」を軸にしており、幸福度や消費生活など、地域と結びつくものが多い。 平成26年度の大学地域連携事業「川崎市多摩区の農業生産者と消費者の交流促進に関する事業」実施 令和2、3年度の大学地域連携事業「多摩区内の住民組織活動と学生による体験的参加・交流を通じた生活ニーズ発掘・充足のためのプロセス分析事業」実施
	属性 所属	
	大学教員 専修大学 経済学部 教授	
04	やまもと としや 山本 俊哉	<ul style="list-style-type: none"> 学生への建築設計課題において、地域をフィールドにした授業を実践 専修大学・佐藤教授と防災まちづくり(逃げ地図作り)で連携
	属性 所属	
	大学教員 明治大学 理工学部建築学科 教授	
05	くろいわ りょうこ 黒岩 亮子	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の大学・連携事業で「地域で活動したい市民のためのキャリアデザインセミナー」を実施し、地域活動のきっかけづくりや、参加者への調査を通して、地域住民がより活動に参加していくためのアプローチを調査 平成24、25年度の大学・連携事業では、「寺尾台団地における高齢者への生活支援事業」として、調査や課題解決の提案を実施
	属性 所属	
	大学教員 日本女子大学 人間社会学部 社会福祉学科 教授	
06	みない なみこ 薬袋 奈美子	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度の大学地域連携事業で「令和の里山の使い方～生田緑地を対象に～」を実施し、生田緑地の森林資源の利活用を提案 令和4年度の大学地域連携事業では「生田で日本文化再発見～伝統の知恵の豊さの発信～」を実施し、民家園の古民家を調査し、日本文化の奥深さを紹介
	属性 所属	
	大学教員 日本女子大学 建築デザイン学部 教授	
07	にのみや しんご 二宮 進語	<ul style="list-style-type: none"> 現状、社会連携の専門部署がなく、大学組織としても待ちの姿勢だった。新学長が地域社会にもっと貢献していくという方針。大学の知的資源を地域へさらに還元していくための議論のきっかけとしたい。 教員や学生がやりたいと思うことを叶えるのが、事務局職員の役割と考えている。
	属性 所属	
	大学事務局 専修大学 学長室長	
08	ふくおか ひでお 福岡 英朗	<ul style="list-style-type: none"> 各キャンパスの連携事業は各キャンパスの総務部が担当している。
	属性 所属	
	大学事務局 明治大学 総務部生田キャンパス課	
09	いしづか みのる 石塚 実	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会からの幅広い要望に応え、大学の知的資産を活かしながら地域と連携し、生涯学習講座や学生による地域活動を通じて、人材育成や地域課題の解決に取り組んでいる。
	属性 所属	
	大学事務局 明治大学 社会連携事務室	
10	みずさわ たけし 水沢 剛	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題解決を通じて学生に学びの場を提供したい。学生も社会貢献意欲は高い。 多摩区との大学地域連携事業はルーティーン的になっていると感じている。
	属性 所属	
	大学事務局 日本女子大学 学務部社会連携室 課長	

No.	氏名(ふりがな)	活動概要
まえかわ すばる		
前川 統		
11 属性	所属	・昨年度「たまなび」参加者 ・佐藤教授の研究室で「クラフトビールをつくってまちとつながる」プロジェクトに参加。ホップ栽培を通じて地域住民と交流
学生	専修大学 ネットワーク情報学部 3年生	
No.	氏名(ふりがな)	活動概要
たなか しゅうま		
田中 秀磨		
12 属性	所属	・昨年度「たまなび」参加者 ・地域のイベントやお祭りなどでボランティア活動 ・LINKsは、多摩SDCが開催している子ども食堂にもボランティアとして参加している。
学生	明治大学 ボランティアサークルLINKs	
No.	氏名(ふりがな)	活動概要
ふじまき くるみ		
藤巻 胡桃		
13 属性	所属	・ MUACの第1期リーダーで、100周年記念事業としてワークショップやスタンプラリー等を実施 ・大学、大学院の研究では、都市計画・まちづくり専攻
学生	千葉大学大学院(明治大学理工学部 学建築学科出身)、前 MUAC代表	
No.	氏名(ふりがな)	活動概要
おおつか ちひろ		
大塚 千寛		
14 属性	所属	・大学近くの図書館で地域の子どもたちに対して月に一回、絵本の読み聞かせを実施 ・昨年のたまたま子育てまつりにボランティアで参加
学生	日本女子大学 文学部史学科 2年生	
No.	氏名(ふりがな)	活動概要
あべ なつき		
阿部 菜月		
15 属性	所属	・多摩SDC学生代表、大学4年生 ・高校3年生時、先輩の紹介で参加。コロナ禍で子どもと関わる機会が少なく、子ども食堂の手伝いを通じて地域活動に興味を持った。小学校教員志望で、教育関連の経験を積みたいという動機も。
多摩SDC	多摩SDC 学生メンバー	
No.	氏名(ふりがな)	活動概要
とみなが ゆうや		
富長 勇哉		
16 属性	所属	・多摩SDC学生副代表、大学4年生 ・大学2年生時、すでにメンバーだった高校の同級生に誘われ参加。進路で悩むも、多摩SDCが居場所となり、小学校教員を目指して大学編入なども経験
多摩SDC	多摩SDC 学生メンバー	
No.	氏名(ふりがな)	活動概要
なかにし しゅん		
仲西 駿		
17 属性	所属	・多摩SDC学生副代表、大学院修士2年生 ・大学入学後、コロナ禍でサークル活動が制限されおり、高校の同級生に誘われ参加。当初は人見知りで苦労したが、仲間のサポートで馴染め、現在では、メンバーや地域の方との交流を楽しみ、自己成長にもつながっていることも実感
多摩SDC	多摩SDC 学生メンバー	
No.	氏名(ふりがな)	活動概要
ほりかわ はな		
堀川 華那		
18 属性	所属	・多摩SDC副代表、社会人2年目 ・多摩SDCのチラシに高校の先輩が載っており、コロナ禍で何かやりたいと思っていたことから、大学1年の夏から参加。栄養士を目指していたので子ども食堂に興味があった。 ・活動を通して、まちづくり、人と一緒に何かやる活動に興味がわくとともに、コミュニティの重要性や、地域包括ケアシステムにもつながることを実感
多摩SDC	多摩SDC 社会人メンバー	
No.	氏名(ふりがな)	活動概要
かば ななみ		
蒲 菜南		
19 属性	所属	・社会人1年目 ・アルバイト先の先輩の誘いで、まず子ども食堂に参加。コロナ禍で孤立感もあり、リアルなつながりを求めていた。 ・活動を通して、仲間との交流や成長の機会を得るとともに、誘い続けてくれる人の存在が重要と感じ、自分も迎える側になりたいと思うようになった。
多摩SDC	多摩SDC 社会人メンバー	

レイアウト・座席表（開会～ワークショップ①）



レイアウト・座席表（ワークショップ②～閉会）



多摩区・3大学連携事業について

【多摩区・3大学連携協議会】

○大学の知的資源及び人材を活用した地域社会との連携

○地域社会の課題解決に向けた実践的な活動

⇒「多摩区・3大学連携協議会」に関する協定締結(平成17年) → **今年度で20周年**

【多摩区・3大学連携協議会の主な事業】

①大学・地域連携事業

多摩区が提示するテーマに対して多様な切り口で取り上げ、学生、教員と地域住民・市民団体等と行政との連携により、調査・研究や実践的な取組を行う

②大学生の地域参加促進事業(たまなび)

多摩区を学生の学び・実践のフィールドと捉え、学生が区民と交流し、地域活動を体験すること等を通じて、地域とのつながりや関心を強め、多摩区への愛着を醸成する

③多摩区3大学コンサート

3大学と地域の交流促進を目的とした合同コンサート



①大学・地域連携事業



②大学生の地域参加促進事業(たまなび)



③多摩区3大学コンサート

各関係者が感じている課題等

- ・行政から、来年度の連携事業の募集依頼が年度の遅いタイミングであるため、大学・地域連携事業を準備する時間が足りない
- ・教員の研究内容などの情報整理が必要

・学生が卒業により入れ替わる

ため、ゼミなどでのプロジェクトが継続しづらい

・研究や授業で地域と関わるには地域との関係性づくりが必要

- ・地域とつながれるきっかけがほしいがどうしたらいいかわからない
- ・地域とつながる際、単なる労働力として扱われるのではなく、自分たちの頭で考え、自分たちの世界も広がる活動がしたい

教員

大学

多摩SDC

学生

行政

- ・中心的に活動できるメンバーの数が減っている
- ・連携や支援の対象をさらに増やしたい

- ・地域の課題解決に資する大学と地域のマッチングを一層進める必要がある
- ・地域課題をより一層把握していく必要がある

多摩区と3大学との連携手法を現状に合わせてブラッシュアップ

本日のねらい

ワークショップを通して・・・



各主体間の効果的な連携を促進するために、
具体化したいアイデアを関係者で整理する

車座集会後の進め方



【R7.11】 効果的な連携の
アイデアを整理
車座集会で検討を行う

【R7～R8】

連携のアイデアについて、
大学、教員、多摩SDC、
行政で具体化に向けた

【R8】 R7の車座集会をきっかけに
生まれた取組の報告と更なる
連携に向けた検討を、R8の
車座集会で行う

【R9】

新たな仕組みの本格実施

